

第28期（令和4年度）事業報告  
（令和4年4月1日から令和5年3月31日まで）

## 全体報告

第28期（令和4年度）は池田記念美術館の開館24年目、公益財団法人としては9年目を迎え、ウイズ・コロナの状況下にあつて、予定通りの事業を実施することができました。

5月23日の第1回理事会は感染症対策としてZoomによる開催とし、書面による決議としました。6月11日には評議員選定委員会が招集され、9名の評議員が選定されました。新任は島田雅士氏。小船井良夫、島田繁富、牧野雄作、鶴岡秀樹の各氏は退任となりました。定時評議員会は3年ぶりに美術館において6月30日、対面開催されました。5月の理事会、6月の評議員会とも、第27期（令和3年度）事業報告及び決算報告などにつき承認されました。また、本年2月22日の第2回理事会は東京において、令和元年（2019）5月以来となる対面での開催となり、第29期（令和5年度）事業計画及び収支計画などにつき承認されました。

第28期に入って、新潟県内全域の学校や施設、企業での新型コロナウイルス感染症陽性者の増加傾向が続き、当館においてもコンサートなど多人数が集まるイベントを引き続き自粛しましたが、下記の対応をとることで、一年間を支障なく運営することができました。

- ・常時、換気。
- ・サーモグラフィ体温計を置いて来館者に「検温と手指消毒」及び「マスク着用」をお願いし、健康管理を促す。また、玄関入口、展示室入口、トイレ前、エレベーター乗降口、エントランスホールなど館内各所に手指消毒用アルコールを設置。
- ・閉館後、取っ手や手すり、テーブル、椅子、トイレ内、事務室などをアルコール消毒。
- ・来館者との接触が多い受付、喫茶カウンターに飛沫防止シールドを設置。

原油価格の高騰によって大幅に増加した光熱費（電気代・灯油代）対策として急遽、開館時間を変更しました。南魚沼市社会教育課の了解を得たうえで、冬期間（1月1日～3月31日）の開館を9時30分～17時としました。（他の期間は従来通り9時～17時です。）

次に、当館初の試みとして、地域と連携する文化活動への支援要請を目的にクラウドファンディングに挑戦しました。目標金額は120万円。募集期間は6月6日から7月15日と短かったのですが、最終的に171人の方々から181万5,000円の寄付をいただくことができ、子どもたちが主役の文化活動を推進する費用として活用しています。これまでも、地元に着目した美術館として、これからの未来を担う子どもたちを育てる活動に重きをおいてきましたが、出前授業、夏と冬のイベント（風ぐるま、錯覚すべり台）、哲学対話教室など、美術館の内と外を行き来した活動を積極的に展開しました。

## 【展覧会について】

全国区で通用する展覧会として、

- ㊦日本を代表する写真家・橋本照嵩氏が1970年代に三味線を手に村々を門付けしながら歩いた瞽女さんとの同行写真と全国の民俗写真、合わせて約200点を展示した「橋本照嵩写真展―越後の瞽女―」を開催しました。大規模な瞽女写真展としては日本初となる展覧会でした。
- ㊧現代美術の作家37人の作品と地元の子どもの作品を共同展示する展覧会として各方面から高い評価を得ている「八色の森の美術展+子ども絵画展」を継続開催しました(6回目)。
- ㊨鉛筆画家として著名な作家・木下晋氏の「驚きの鉛筆画―木下晋の絵本原画展―」を開催。中国で出版された新作絵本「おばあちゃんの大晦日」は日本初公開となりました。
- ㊩錯視研究の第一人者の東京大学名誉教授・杉原厚吉先生の錯視作品の新作を中心に紹介し、理系世界の魅力と不思議さを教えてくれる「錯覚展」を毎年開催し、冬の定番となる展覧会として定着しました。

次に、地域の文化活動の促進に寄与するための企画として、

- ㊪地元の絵画団体・白象会に所属する「高橋正則・佐藤守弘 二人展―魚沼を描く―」と、
  - ㊫「白象会創立70周年記念―白象展―」をそれぞれ開催し、多くの来館者がありました。
- また、以下の展覧会を継続開催することで、地域との連携を深めることができました。
- ㊬「八海山夢展」と「八海山ジュニア展」
  - ㊭「南魚沼郡市児童生徒美術展」
  - ㊮「魚沼ベストショット展」

## 【アウトリーチ事業】

地域や学校と連携・支援する美術館の活動として、夏休みに八海山麓スキー場で開催されたイベント「八海山麓スキー場アクティブサンロックサマー」に協賛・参加しました。

また、「八色の森の美術展+子ども絵画展」の一環として、7月に東京から作家を招いて小学校で出前授業を実施し、造形遊びのワークショップを楽しみました。9月にも南魚沼市立総合支援学校(MSG)アートクラブのメンバーを美術館に招いて実施しました。

10月と11月、哲学対話の第一人者である立教大学・河野哲也先生の指導と上越教育大学の松本健義研究室の協力のもと、立教大学哲学・倫理学研究室スタッフがファシリテーターとなって、「八色の森の美術展+子ども絵画展」と「驚きの鉛筆画―木下晋の絵本原画展―」の作品鑑賞を媒介にした「哲学対話」を実施しました。

3月には、杉原厚吉先生の錯視作品を紹介する「錯覚展」の野外編として、八海山麓スキー場の感謝祭イベント「八海山麓ホワイトカーニバル」(3月12日)において、「雪の錯覚すべり台」を製作、披露しました。

### ① 八海山麓スキー場アクティブサンロックサマー

7月23日(土)～8月21日(日)

「八海山麓スキー場アクティブサンロックサマー」に協賛・参加し、グルグルハウス高柳から借用した風ぐるま約3,000本を、地元の子どもの人たちから大人まで40人以上の手助けでゲレンデに設置しました。同じく地元住民の協力で草むらに巨大迷路をつくり、柏崎市在住の作家・

関根哲男氏の作品「赤ふんベローン」や地元のこども園・保育園（浦佐認定こども園、赤石保育園、三用保育園）の園児が制作したユニークなおバケを展示しました。イベント終了後、風ぐるま約1,000本を美術館に移動して、8月31日の放課後、国際情報高校の生徒と一緒に美術館前に設置、台風の接近で一度は緊急避難で片付けましたが、再度設置して、10月後半まで披露しました。

## ② 出前授業

7月5日（火） 赤石小学校（3年生5名）

7月6日（水） 後山小学校（全校児童13名）

9月19日（月・祝） 南魚沼市総合支援学校MSGアートクラブ（8名）

「八色の森の美術展+子ども絵画展」の一環として出前授業を実施。東京在住の版画家・佐藤未来さんが講師となり、発泡スチロールを使った個性豊かな造形作品が完成しました。MSGアートクラブの授業は美術館で実施。完成した作品は、八色の森の美術展で現代美術作家の作品と一緒に展示しました。

## ③ 哲学対話教室

10月16日（日）～17日（月）

11月14日（月）

11月21日（月）

立教大学・河野哲也先生の指導と上越教育大学の松本健義研究室の協力のもと、立教大学哲学・倫理学研究室スタッフがファシリテーターとして参加。10月16日は、園児、小学生、中学生、高校生、大学生、保護者、教育関係者80人以上が参加し、鑑賞型対話を実践・体験しました。終了後、来日中のチェコ共和国カレル大学のノボトナー先生を交えて当日の哲学対話を振り返り、また、同氏による「チェコにおける美術館教育」についてのレクチャーも実施しました。

翌日の17日、午前は、毎回参加している南魚沼市浦佐認定こども園の年長児約20人を対象に前日同様の「哲学対話」を実施。午後は、認定こども園在園時に「哲学対話」を経験したことのある南魚沼市立浦佐小学校学童クラブの1・2年生20人が参加しました。夕方には、関連事業として金沢学院大学の家崎萌先生と上越教育大学の松尾大介先生を講師に、国際情報高校と六日町高校の生徒16人によるワークショップ「想像の訪問者のための鑑賞ルート」を実施しました。

11月14日、鉛筆画の画家として知られる作家・木下晋氏の「驚きの鉛筆画—木下晋の絵本原画展—」の作品を鑑賞しながら、南魚沼市浦佐認定こども園の年中児40人を対象に「哲学対話」を実施。終了後、こども園に場所を移して河野先生による職員向けのレクチャー（約20人）と質疑応答の時間を設けました。

翌週の11月21日、南魚沼市内の大崎小学校1年生21人と赤石小学校4年生15人を対象に同様に「哲学対話」を実施しました。絵本のストーリーを追いながら感じたことを話し合う姿が見られました。

#### ④ 雪の錯覚すべり台

3月12日（日）

八海山麓スキー場の感謝祭イベント「八海山麓ホワイトカーニバル」において、杉原厚吉先生が設計した「雪の錯覚すべり台」を製作、披露しました。このすべり台は縦12m×横12m四方、中央部分の高さ1mの大きさがあり、一見するとごく普通のすべり台の形をしているのですが、高さ9mの見晴台から斜めに見下ろすと、中央部分が凹んで見えます。実際に子どもたちがソリに乗ってすべりおりる姿を高台から見ると、子どもが斜面をすべり上っていくように見えるという不思議なすべり台です。製作にあたっては、杉原先生においでいただき、その指導の下に地元有志と国際情報高校生徒の労力によって完成することができました。この世界初の「雪の錯覚すべり台」は当館の単独事業として2017、2018、2019、2021年に続き、5回目の製作となりました。

#### 【ベースボール・マガジン社新潟支社との連携】

ベースボール・マガジン社新潟支社が中心となって運営する総合型地域スポーツクラブ「スポーツ&ライフ南魚沼」と連携して、地元在住の書家、花屋さん、インストラクター、写真家を講師に各種講座を開講しました。

〈実施したスポーツ・文化講座〉

- ・美文字講座
- ・フラワーアレンジメント講座
- ・エアロ&ヨガ教室
- ・スポーツ写真教室

## 【入館者数】

以下は、公益財団法人移行後の入館者数、有料入館者数です。

	入館者数（人）	有料入館者数（人）
20期（H26年度）	19,597	11,960
21期（H27年度）	16,471	7,601
22期（H28年度）	20,302	10,101
23期（H29年度）	16,186	6,905
24期（H30年度）	16,193	5,681
25期（H31年度）	16,309	5,207
26期（R 2年度）	10,452	3,902
27期（R 3年度）	13,307	4,965
28期（R 4年度）	12,752	5,451

以下は、28期（R 4年度）の月別入館者数です。

月（R 4年度）	入館者数（人）	前年度（R 3年）
4月	883	606
5月	1,295	403
6月	712	1,231
7月	1,176	1,328
8月	1,587	1,453
9月	736	661
10月	843	879
11月	818	1,311
12月	403	1,813
1月	2,428	2,388
2月	780	686
3月	1,091	548
合計	12,752	13,307

春先の来館者数は伸び悩み、その後、夏場にかけて徐々に客足は増加してきましたが、秋口になって再び減少となり、年が明けてからようやく持ち直しました。4月から9月までの前半期の入館者数は前年比112%でしたが、年間では前年比96%となりました。

## 【事業収益の内容】

以下は、公益財団法人移行後の事業収益の内容です。

	入館料収入	企画事業 収入	カード ショー収入	売店収入	喫茶収入	委託販売 手数料	合計（円）
20期	5,552,515	3,782,688	1,377,220	3,963,328	1,181,938		15,857,689
21期	3,679,790	6,848,309	1,187,600	2,459,667	1,095,161		15,270,527
22期	5,316,582	1,142,766	1,142,800	3,642,463	961,829		12,206,440
23期	3,789,970	1,339,159	1,403,760	1,418,750	827,992	86,996	8,866,627
24期	3,812,030	819,690	1,229,000	1,323,570	996,766	60,000	8,241,056
25期	3,722,840	4,383,974	1,121,400	2,982,806	758,410	6,000	12,975,430
26期	2,392,850	3,155,953	0	1,439,454	460,938	40,000	7,489,195
27期	2,828,600	3,125,372	1,342,050	1,264,918	556,494	38,000	9,155,434
28期	3,153,550	3,594,090	1,539,100	2,734,715	584,759	15,064	11,621,278

本年度（28期）の事業収益については、入館料（前年比111%）、企画事業（同115%）、売店（同216%）、喫茶（同105%）、カードショー収入（同115%）となり、全体では前年比127%となりました。売店の増は絵画作品の売上げによるものです。

※ 第20期（平成26年度）は「国民栄誉賞受賞記念の長嶋茂雄展」、南魚沼市市制10周年記念事業として採択された「石川雲蝶展」「星野富弘展」の大型企画が3本あり、入館者数が増加。グッズや小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第21期（平成27年度）は絵画1点の委託販売料（224万円）と、新潟大学・南魚沼市との共同企画（魚沼—記録と記憶の再生プロジェクト—）が文化庁の助成を得たため（333万円）企画事業収入が増加しています。

第22期（平成28年度）は「錯覚展」がマスコミ各社に大きく取り上げられた結果、冬期間の来館者数・入館料が大幅に増加しました。小作品の販売によって売店収入も増加しました。

第23期（平成29年度）は前期と比較して、1月～2月の豪雪・悪天候も影響したため、冬期間の入館者数と入館料が減少しました。

第24期はイベント時のスポーツウェア販売が落ち込んだため企画事業収入が減少しました。

第25期の企画事業収入が前年に比べて増加しているのは、「八色の森の美術展」記録集制作にあたっての協賛金・広告費収入、「ふれる かんじる 楽しい美術展」開催にあたっての新潟県からの援助などによるものです。また、売店収入の増加は小作品と画集の委託販売収入増によるものです。

第26期はコロナ禍でカードショーが中止になったため収入がありませんでした。

第27期はカードショーを年間3回開催したことによりカードショー収入が例年通りの数字となりました。

なお、23期以降の委託販売手数料は「ベーマガ米」の販売手数料です。

### 【各種補助金・支援金、助成金】

中小企業庁から新型コロナウイルス感染症からの事業再生に向けての支援金があり、また、内田エネルギー科学振興財団から「雪を使った錯覚すべり台製作プロジェクト」、カメイ社会教育振興財団からは「美術館を舞台にした哲学対話プログラム」に対して、それぞれ助成金がありました。

雑収益	中小企業庁	事業復活支援金	1,000,000 円
民間助成金	内田エネルギー科学振興財団	地域活性化活動・再生活動事業費助成	200,000 円
民間助成金	カメイ社会教育振興財団	文化及び芸術等の振興に対する助成	200,000 円

### 【年間パスポート】

平成 28 年度から発行している年間パスポート（3,000 円）の会員数は 53 人、平成 30 年度から新たに開始した法人パスポート（10,000 円）の会員数は 9 件です。同じく、喫茶収入を増やすために、平成 30 年度から始めたドリンクチケット（5 杯つづり 1,000 円）は年間 159 枚の需要がありました。

### 【援助事業】

公募によって募集した「環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業」「国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業」については応募がなく、実施できませんでした。

以下、援助事業、美術館事業、スポーツ協賛事業、収益事業などにつき説明いたします。

## 1、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流援助事業

公募により、環日本海沿岸諸国とのスポーツ国際交流事業に対して援助（1件10万円、2件以内）となっていますが、応募はありませんでした。

## 2、国際的なスポーツの学術的研究に対する援助事業

公募により、国際的なスポーツの学術的研究に対して援助（1件10万円）となっていますが、応募はありませんでした。

## 3、美術館事業

### 1) 展覧会

#### ① 秋元貴美子写真展「都市と自然のエレメンツ」

■会期：1月22日（土）～4月14日（木）〈3月6日までの予定を会期延長〉

（開館日数67日、入館者数1,902人、4月1日以降243人）

写真家、日本大学芸術学部写真学科教授として活躍する秋元貴美子氏の個展。会期を延長して開催しました。近年の写真活動の集大成となる個展として200点以上を展示。会期中に写真教室を開催し、地元写真愛好家との交流と技術向上に貢献しました。

#### ② 収藏品展—東欧の絵画とナイーヴ・アート—

■会期：3月12日（土）～4月14日（木）

（開館日数29日、入館者数596人、4月1日以降243人）

当館収蔵の旧ユーゴスラビアやブルガリアなど東欧諸国の画家の絵画作品と、ナイーヴ・アート作品を紹介する展覧会。ナイーヴ・アートは素朴派とも呼ばれ、独学で技法や構成を学んだ市井の人々が制作した飾り気のない独創的な作品です。企画展示室を会場に、小品を中心に45点を展示しました。

#### ③ [春季特別展示] 第5回 錯覚展—杉原教授の不思議な世界—

■会期：3月12日（土）～5月8日（日）

（開館日数46日、入館者数1,843人、4月1日以降1,492人）

錯視研究の世界的権威、明治大学研究特別教授の杉原厚吉先生が制作した「実際とは違うように見えてしまう」作品を約70点展示。毎回、新作を披露しており、今回は「起き上がる立体」を初公開しました。子どもから大人まで開催を心待ちにしている展覧会です。

#### ④ 高橋正則・佐藤守弘 二人展—魚沼を描く—

■会期：4月21日（木）～5月15日（日）

（開館日数23日、入館者数1,621人）



魚沼市の絵画団体白象会の高橋正則氏と佐藤守弘氏の二人展。両氏とも公募団体・示現会の会員でもあり、高橋氏は日展入選の実績もあります。主な作品は八海山や越後三山など魚沼の自然を描いた風景画（油彩画）で、公募展に出展した100号大作その他、過去の作品や小品も合わせ71点を展示。ギャラリートークも3回開催し、多くの地元の方が訪れました。

#### ⑤ 橋本照嵩写真展「越後の瞽女」

■会期：5月21日（土）～7月10日（日）

（開館日数44日、入館者数1,311人）

日本を代表する写真家の一人である橋本照嵩氏の写真展。1972年～73年にかけて新潟県中越地方で長岡瞽女と土地の人々の暮らしを追った作品と、全国各地の民俗写真も合わせ、約200点を展示。会期中、トークショーを2回開催。瞽女の写真を通して障害、女性の職業、性差別などについても考えてもらうことができました。

#### ⑥ 第23回 八海山夢展

■会期：7月16日（土）～8月29日（月）

（開館日数39日、入館者数2,440人）

主催は八海山夢展実行委員会。魚沼の美術愛好家を中心に、地元の美術振興を目的に創設され、今回で23回目の開催となりました。絵画・書道・写真・水石・工芸の5部門で募集。出展者は103人、126点の作品が展示されました。関連イベントとして、絵画部門・油絵制作実演と解説会、工芸部門・陶芸体験教室、書道部門・うちわにマーブリング&書道、写真部門・初心者向け撮影会（八色の森公園）を実施し、地元市民との交流と美術振興を図りました。

#### ⑦ [同時開催] 第5回 八海山ジュニア展

■会期：7月16日（土）～8月29日（月）

（開館日数39日、入館者数2,440人）

「八海山夢展」の期間に合わせて開催。令和3年度新潟県ジュニア美術展覧会に入賞した南魚沼市と魚沼市の児童生徒の作品を展示しました。

#### ⑧ 第6回 八色の森の美術展+子ども絵画展 2022

■会期：9月3日（土）～10月23日（日）

（開館日数44日、入館者数1,520人）

全国各地から現代美術の世界で活躍する作家37人が出品し、地元の子どもの作品と一緒に共同展示するという画期的な試みと、基調講演・文化講座・ワークショップ、哲学対話教室などの関連イベントによって各方面から高く評価されている美術展です。6年連続の開催となり、アートの力で地域と連携しました。

#### ⑨ 驚きの鉛筆画—木下晋の絵本原画展—

■会期：10月29日（土）～12月23日（金）

（開館日数48日、入館者数1,316人）

木下晋氏は、10H から 10B まで 22 段階の鉛筆を使い分けて、人間の内面世界に切り込んだ作品をモノクロームの鉛筆画で表現する作家です。絵本作家としても「ハルばあちゃんの手」「はじめての旅」「森のパンダ」の作品があり、2022 年 1 月には中国浙江省の出版社から新作絵本「おばあちゃんの大晦日」が出版されました。今回、木下氏による 4 つの絵本のすべての原画を展示、日本の代表的鉛筆画家の表現世界を紹介しました。またイベントとして、木下晋氏と唐亜明（たん・やみん）氏の対談を開催。唐氏は元福音館書店編集者で、木下氏の初めての絵本「ハルばあちゃんの手」をきっかけに数々の絵本の編集を手掛けています。木下氏との出会いや鉛筆画の魅力などを語っていただきました。

## ⑩【特別展示】

### 音楽と動物と魚沼を愛したアメリカ人が好きなものだけ集めた小さな展覧会

■会期：10月29日（金）～12月23日（金）

（開館日数 48 日、入館者数 1,316 人）

木下展と同時開催。元国際大学の先生で 2021 年に亡くなられたトム・ヘイズ氏が収集したギター、ローリング・ストーンズのギタリストとして知られるロン・ウッド制作のリトグラフ作品など、貴重なコレクションを展示。遺族の希望で実現しました。

## ⑪ 第 67 回 南魚沼郡市児童生徒美術展

■会期：1月6日（金）～1月17日（火）

（開館日数 11 日、入館者数 2,141 人）

南魚沼市及び湯沢町の小中学生の作品 415 点を展示。入館は無料（南魚沼市と湯沢町の補助あり）。期間中はエントランスホールを使い、雪見展と一箱古本市も開催しました。児童生徒の家族ほか、若年層の入館者が多く、普段美術館にあまり来ない人々からもご来館いただけたと思います。

## ⑫ 魚沼ベストショット展 PartⅦ

■会期：1月21日（土）～3月5日（日）

（開館日数 38 日、入館者数 1,245 人）

魚沼をテーマに、自然、人間、多彩な魅力を表現した写真を展示する展覧会で、毎年開催し、今回で 12 回目となりました。魚沼はもとより新潟県内外から 51 名の写真家が出品しました。会期中は、作品解説会を 2 回開催、多数の参加がありました。

## ⑬ 【冬季特別展示】第 6 回 錯覚展—杉原教授の不思議な世界—

■会期：1月21日（土）～4月16日（日）

（開館日数 70 日、入館者数 2,756 人、4 月 1 日以降 598 人）

錯視研究の世界的権威、明治大学研究特別教授の杉原厚吉先生が制作した作品を展示・紹介する展覧会です。今回は二科展彫刻部門に入選した作品の他、新作を多数展示。また、3 月 12 日には、八海山麓スキー場で開催された「八海山麓スキー場ホワイトカーニバル」にて、実際に子どもがすべることのできる「雪の錯覚すべり台」を製作・公開しました。

#### ⑭ 白象会創立 70 周年記念—白象展—

■会期：3月11日（土）～4月16日（日）

（開館日数 32 日、入館者数 1,511 人、4月1日以降 598 人）

魚沼市唯一の絵画団体、白象会が創立 70 周年を迎え、その記念展として開催しました。会員 18 名の作品と、初代会長・渡辺泰亮氏の作品を展示。会員作品は、新作とともに過去の代表作も選んでもらい一緒に展示しました。白象会の現在と歴史を感じる事が出来たと好評でした。また解説会を 2 回開催、白象会会長の高橋正則氏が解説しました。

#### 2) スポーツ関係部門

スポーツ文化展示室を中心に展示を行いました。8月に池田理事長とともに早稲田大学野球部が見学に来られたので、収蔵する早稲田大学野球部資料を展示。早稲田大学野球部の長い歴史の一部を紹介しました。

##### ① スポーツカードの展示

今年度は、多目的ホールの空き期間がなく、展示できませんでした。

##### ② 常設展示の入れ替え

8月9日（火）の早稲田大学野球部見学にあわせ、プロ野球関係資料の一部を早稲田大学野球部関連資料に入れ替えました。

#### 4、スポーツ協賛事業

コロナ禍により中止となったスポーツイベントがありましたが、地域との関わりを重視し、主催、協賛、実行委員会など積極的に参加し、スポーツ交流を促進しました。

##### ① ベースボール・マガジン旗争奪上越沿線少年親善野球大会【開催】

日時：2022年5月21日（土）～22日（日）

主催：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

共催：魚沼市教育委員会 主管：魚沼市野球連盟 後援：魚沼市体育協会

会場：広神野球場、薬師運動広場

##### ② さわやかジョギング大会【中止】

日時：2022年6月5日（日）9:30～

主催：南魚沼市教育委員会

協賛：公益財団法人池田記念スポーツ文化財団／株式会社ベースボール・マガジン社

会場：八色の森公園周辺特設コース

##### ③ 南魚沼グルメマラソン【規模を縮小し開催】

日時：2022年6月12日（日）8：30～12：30

主催：南魚沼グルメマラソン実行委員会

会場：八色の森公園周辺特設コース

④ 八色の森健康ウォーキング【開催】

日時：2022年9月23日（金・祝）9：00～12：30

主催：八色の森健康ウォーキング実行委員会

会場：八色の森公園周辺特設コース

⑤ 水無溪谷リバーウォーク【開催】

日時：2022年10月23日（日） 8：00～14：00

主催：水無溪谷リバーウォーク実行委員会

会場：八海山麓サイクリングターミナル周辺特設コース

⑥ 八色の森公園子ども雪まつり【中止】

日時：2023年3月5日（日） 9：00～15：00 <予定>

主催：浦佐こども雪まつり実行委員会

会場：八色の森公園特設会場

⑦ 八海山麓ホワイトカーニバル【開催】

日時：2023年3月12日（日） 11：00～15：00

主催：八海山麓ホワイトカーニバル実行委員会

会場：八海山麓スキー場

錯覚展と連動し、雪の錯覚すべり台を公開しました。

## 5、収益事業

### 1) 売店収入

企画展、ワークショップなどと連動し、作家の小作品、画集、写真集、図録、DVD、関連グッズなどをショップに飾り、売上アップを図りました。委託販売のグッズも取り揃え、ショップを充実させました。

### 2) 喫茶収入

エントランスホールからの景色を鑑賞しながら飲む一杯のコーヒーのおいしさをアピールして売り上げをのばしてきました。最近、リピーターに「イケビの珈琲はほんとうに美味しい」と声をかけられます。2011年からジェラートを扱い、2013年からは抹茶、2016年には冷抹茶をメニューに加え、新たな客層を呼び越してきました。2018年春からはコーヒーチケットを販売し企画展と連動して販売するなど、引き続き売上増を図ります。

### 3) スポーツカードショー収入

スポーツファン、スポーツカードファンとの交流を促進し、スポーツカード文化の啓蒙とさらなる向上を目指し収益を拡大しました。

① BBM スポーツカードショー2022 春の陣 in 浦佐 (池田記念美術館)

■日時：2022年4月23日(土) 18名参加

② BBM スポーツカードショー2022 秋の陣 in 浦佐 (池田記念美術館)

■日時：2022年11月26日(土) 28名参加

③ BBM スポーツカードショー2023 冬の陣 in 浦佐 (池田記念美術館)

■日時：2023年2月4日(土) 29名参加

### 4) 委託販売手数料収入

収益事業として「南魚沼産コシヒカリ」の販売に積極的に取り組みました。

### その他

① 一箱古本市@池田記念美術館

■2022年7月24日(日)～8月14日(日)

■2023年1月6日(金)～1月17日(火)

個人が自分の古書をワイン箱に並べて販売するイベント。夏と冬に2回開催しました。本好きの間で話題になり、今では他の地域でも一箱古本市が開催されるようになっています。冬の開催は入館無料の期間中となり、多数の来館者となりました。企画を通して、本に関わる文化の魅力を発信しました。

② 雪見展

■2023年1月6日(金)～1月17日(火) 来館者数：2,141人(11日間)

真冬のクラフトマーケット。地元中心に、手作りの雑貨や食品をつくらしているショップや個人が集まり、自慢の一品を販売するイベント。フリーマーケットが少ない冬に開催することから、県外など近隣地域外からの出店も増えてきましたが、新型コロナウイルス感染症の流行で2021年は中止、2022年は規模を縮小して開催しました。

③ <施設提供>新潟日報カルチャースクール

毎月2回、休館日の水曜日に施設提供し、新潟日報カルチャースクール魚沼教室として開催。仏像彫刻、太極拳、ハーモニカ、バテンレースの教室を実施しました。

④ コンサートなどの中止

コロナ禍で池田音楽クラブ「音を楽しむつどい」は開催を中止しました。